

【ポスターセッション】

障害者支援施設における利用者の会および家族会の機能

—A 施設職員へのインタビューより—

○ 国際医療福祉大学 山口 佳子 (会員番号 008043)

キーワード： 利用者の会 家族会 障害者支援

1. 研究目的

本研究の目的は、障害者支援施設における利用者の会および家族会の、機能と意義について明らかにすることとしている。

筆者による「障害者の支援計画作成における本人の参加に関する研究」(2015)において、計画参加を促進する要因として、職員による支援以外に、利用者の会、他利用者との関わり、障害者スポーツ大会等の施設内外の社会資源の活用・開発、専門職連携・多機関連携、家族会活動など家族との連携が抽出された。ここから、利用者の会および家族会の機能および意義について、さらに研究を行うこととした。

先行研究では、障害や疾病の単位で組織された、当事者組織についての研究において、ピアやセルフヘルプの機能が示されている。特別支援学校の保護者または地域単位の家族会（親の会・育成会）についての研究では、ピアカウンセリング、セルフヘルプグループとしての機能が示されている。障害児の養育に関する会については、専門職による介入や療育への指導・助言がある。施設単位の親の会についての研究、施設と親の会との関係性についての分析はなされていない。いずれの会も、意志の尊重などの権利擁護としての機能、計画作成や活動への参加促進としての機能について、分析されたものはない。

本研究の特徴は、①施設単位の組織が対象であること②会の機能について分析すること③意思表示の機能に着目し、権利擁護の視点で研究することが挙げられる。今回は、ある施設における利用者の会および家族会について、運営の実際と果たしている機能、求める機能について検証することにより、意義、役割、設置の必要性、あり方について明らかにする。

2. 研究の視点および方法

障害者支援施設 A 施設の、利用者の会および家族会に携わる施設職員を対象に、インタビューガイドを用いた半構造化面接を実施する。利用者の会、家族会の設置目的、求める機能と現状、運営の現状について聞き取る。面接内容は調査対象者の許諾を得て IC レコーダーに録音し、逐語録を作成する。分析方法は、質的データ分析法（佐藤 2008）を参考にし、データ（逐語録）から利用者の会および家族会の機能と現状に関する記述を抜き出し、コードを付与し、さらに抽象度の高いカテゴリーを付与する。マトリクスを作成によ

り、コード間、コードとデータの比較、データ同士の比較をしながら行う。作業のプロセスでは、文章の部分や文書全体の文脈に立ち返りながら繰り返し行うことで、解釈の可能性を広げるとともに厳密性と妥当性の担保に努める。データ分析の段階で、調査対象者に内容について確認することで分析結果の妥当性の確保に努める。これらの分析について、障害者支援施設の利用者の会および家族会の意義、役割、設置の必要性、あり方について考察を行う。

3. 倫理的配慮

本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得ている。インタビュー対象者と事例の本人もしくは家族に対し、研究の意義、目的、方法について、文書および口頭により十分な説明を行う。研究対象者は研究内容を理解したうえで、自由意思に基づいて研究参加する。同意しないことによる不利益は受けないこと、同意した後も不利益を受けることなく撤回することを保障する。取得した個人情報について、厳格なアクセス権限の管理と制御を行う。データは研究目的でのみ使用し、結果の公表に際しては事例内容に影響が少ない部分において本質や分析の焦点が損なわれない範囲内で加工し、個人情報保護に十分配慮する。

4. 研究結果

①利用者の会に求める機能と効果について、次のコードが抽出された

- ・求める機能：選挙への「参加」、役員業務による「自信」、「社会性向上」落選による「自己覚知」、利用者の「主体性」、「自己決定」の機会など
- ・効果：役員業務による「自信」、「社会性向上」、「主体性」、「作業意欲」、「他者への配慮」「責任感」企画などの「提案」「意思表示」など

②家族会に求める機能と現状について、次のコードが抽出された

- ・求める機能：「意思表示」の機会、「ピア」、「主体性」の自覚、施設との「協働」など
- ・現状：「協働」「意思表示」が見られるが、「参加者の固定化」が近年の課題

5. 考察

利用者を権利の主体と捉え、利用者の自己選択・自己決定を最大限尊重するために、支援者は多様な選択や決定の機会を提供することが求められる。利用者の会および家族会の意思表示の機会としての機能は、利用者の権利擁護、施設サービスの質の向上に寄与すると考えられる。また、求める機能以外にも、利用者の違った面の発見や、作業効率の向上などが示された。特に互選による役員選出によって、自己決定、自己選択の機会の提供だけではなく、他者の観察や承認欲求の発現、自己覚知が見られ、これらは通常の作業活動だけでは得られないことである。